

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業(学術知共創プログラム)
フォローアップ報告書(令和5年度)

課 題	C:新たな人類社会を形成する価値の創造
研究テーマ名	よりよいスマート WE を目指して:東アジア人文社会知から価値多層社会へ
研究代表者	出口 康夫
所属機関・部局・職	京都大学・大学院文学研究科・教授
フォローアップ所見	
本研究は、スマート化・DX 化が急速に進む今の時代において人間観・社会観を哲学的に再考すると同時に、合意形成・問題解決の方法を実践的に追求するものであり、人文学・社会科学の根源的な問いのもとで未来社会の諸問題への応答を提示するという本プログラムの趣旨に沿って研究が進められている。 応募時の研究計画で令和 4 年度は、キックオフイベントのシンポジウムのほかは主に研究体制・共創体制の構築に当てられており、この計画に沿って活動が進められている。採択時の「審査に係る所見」で疑問点とされていたスマートツールについては、越前市、小田急などの連携パートナーの問題意識に適したツールを選んで予備実験を行っているとのことである。ただし、そうした現場での実験の学術的な価値が見えやすくなるよう、裏付けとなる WE 理論との関係をより明確にすることが望まれる。 研究グループ間の連携がどの程度緊密に行われているかは、提出された資料からは必ずしも判然としなかった。たとえば慶応義塾大学では重要文献の要約集を作成して実験のための基盤を確立したとのことだが、これは越前市、小田急などでの実験と具体的にどうつながっているのだろうか。また、開始後間もない段階なのでやむを得ないことではあるが、研究成果として挙げられている論文等は本研究のテーマとはやや異なるものが多く、ウェブサイト上の活動報告も個別の研究会等の簡単な活動報告が中心であるため、本研究テーマについて全体としてどの程度の知見が得られたのか分かりにくい。今後、多様なテーマとグループにまたがる研究活動を巧みにマネージし、問題設定と研究成果の関係を分かりやすく提示しながら、研究期間終了までに研究目的を達成することを期待したい。	